高は1月で *G. saduski* に比べ、良く似ているが出現期間が短かく、12月から3月まで採集出来ている。5)

T. ichikawai; 特異な消長を示している。9, 10月に急に多数の寄生を見るが、他の場所や時期には非常に少ない。又翌年も必ずしも多くは採集出来ないようである。

6) *T. kuroshio*; 採集数が少ないけれども、9月から3月まで、少し宛採集出来ている。最高は2月である。

この他の種類は採集数が少くて消長をみることは出来ないが、大体に於て10月から翌年の5月までの間に採集出来たものである。
(長大・風研・衛動)

畜舎に飛来するヌカカの種類 と発生状態

矢島 朝彦 北岡 茂男
上野 計

Yajima, A., Kitaoka, S. & Ueno, H.:
On the species and occurrence of
culicoid flies collected from the stall

馬の夏癰の研究の一環として家畜衛生試験場(東京都下小平町)に於いて、畜舎に飛来するヌカカを採集し、その種類並に発生状態を調査した。採集方法は Light trap を使用する。採集期間は昭和29年6月中旬より12月上旬まで、6カ月間とし、約1週間々隔に行うのを正規としたが、天候によつては一定しない場合もあつた。その結果同定されたものは4属9種類であるが、本試験に於いては *Culicoides* に重点をおき他の属は記録に止める。

1. *Culicoides sigaensis*, 2. *C. oxystoma*, 3. *C. arakawae*, 4. *C. nipponense*, 5. *C. kitaokai*, 6. *C. kibuensis*, 7. *Alluaudomyia undecimpunctata*, 8. *Lasiohelea* sp., 9. *Forcipomyia* spp. これらの発生状態を見ると、採集総数は16,000以上で、このうち、*C. sigaensis* が最も多く90%以上を占め14,600, *C. oxystoma* が1,250, *C. arakawae* が250でこれに次ぎ *C. nipponense* 27, *C. kibuensis* 5, *C. kitaokai* 4の順序であつた。

次に発生期間は *C. sigaensis* は6月から11月下旬まで、*C. oxystoma* も同様に6月から11月上旬まで発生するが、これ等2種は7月中・下旬と8月上旬から9月上中旬の間に最も多く採集した。*C. arakawae* は7月上旬から10月下旬まで、*C. nipponense* はか2種は殆んど9月中旬より10月下旬の間に採集した。*C. sigaensis* と *C. oxystoma* の2種が急激に増加しはじめた旬間平均最低気温は17°Cで、採集数が激減するときの同温度は11°Cであつた。これ等採集したヌカカの吸血状態を見ると *C. sigaensis*, *C. oxystoma*, *C. nipponense* の3種明らかに吸血していたが、*C. arakawae* は余り明瞭

でなかつた。*C. sigaensis* と *C. oxystoma* の吸血率は6月中旬は極めて低かつたが、次第に増加し、8月上旬には80%以上に及ぶことがあつた。その後次第に低下し12月初旬には全く見られなかつた。また同時にヌカカの体内に於ける線虫類の検索を行つたところ、*C. sigaensis* を除く5種類からは全く検索し得なかつたが、*C. sigaensis* からはマイクロフィラリヤ線虫類を検出し、その検出率はマイクロフィラリヤが0.16%, 線虫類が1.5%であつた。
(家畜衛生試験場)

米子市に於ける蚊の季節的消長(第2報)

長花 操 外山 寛樹

Nagahana, M. & Toyama, H.: Seasonal
prevalence of mosquitoes in Yonago City
(Tottori Prefecture) 2nd report

昭和27年、28年に続いて29年は、米子市の2カ所に於てライトトラップにより蚊の成虫を採集し、その季節的消長をしらべた。即ち昭和29年5月より10月に至る間、米子市西町医学部構内と、過去2年間吸虫管により蚊の消長をしらべてきた東福原とに於て、ライトトラップにより前者では終夜、後者では午後7時より10時までの3時間、毎日採集を行つた。尚、東福原に於ては、6月より10月上旬まで、同時に吸虫管により屋内に入る蚊の採集も行つた。結果は次の通りであつた。採集蚊の総数は12種、8793個体で、中 *C. pipiens* は6607個体で75.1%を占めて最も多く、次いで *C. tritaeniorhynchus* が1026個体で11.7%を占め、*Anopheles sinensis* は957個体で10.9%を占めたが、他は少数宛に過ぎなかつた。*C. pipiens* はライトトラップによる採集結果の消長曲線では、6月下旬、7月下旬及び8月下旬に山を、7月中旬と8月中旬に谷を描く波型を示したが、吸虫管による採集ではこれと非常に異つた消長を示し、7月下旬に最高の山を描いて以後は激減している。*C. tritaeniorhynchus* は、7月中旬から8月中旬に至る1カ月間に比較的多数出現し、消長曲線の山はライトトラップでは7月下旬に、吸虫管によるものでは8月上旬に認められ、昨年より尚、活動の期間が短かつた様である。*Anopheles sinensis* は医学部内のライトトラップによる採集では高い山は認められなかつたが、東福原に於ては、7月下旬に低い山を、8月下旬に第2の高い山を認めた。しかし、8月下旬の高い山は、ライトトラップによるものだけに認められ、吸虫管による採集では認められなかつた。この様にライトトラップによる採集結果と、吸虫管による採集結果との間に、著しい差異が認められ蚊の消長の複雑性を示したが、この原因と、各種蚊の真の季節的消長の究明は今後の調査に待つ次第であ